編集委員④

男の子は戦隊ヒーロー？ 女の子はおままごと？

子どものおもちゃと聞くと何を思い浮かべるでしょうか？男の子なら戦隊ヒーローのおもちゃ、女の子はおままごとセットでしょうか？

子どもが小さい頃は、大人が子どものおもちゃを選ぶこともありますが、そこから何を好きになるかは、子どもによって違います。しかし、戦隊ヒーローのおもちゃも、おままごとセットも、よく考えてみると似ていると感じます。なぜなら、どちらも何かに「なりきる」遊びだからです。子どもは、おもちゃで遊びながら想像力や集中力などを養います。遊びを通じて周りのことに興味を持ち、何かに憧れを抱くという点では同じではないでしょうか。

また、性別による色のイメージはどうでしょうか？前号でも触れましたが、昔は、赤いランドセルは女の子の定番カラーでした。一方で戦隊ヒーローのリーダー、レッドは男の子にも大人気ですし、男の子に好きな色を聞くと赤色と答える子もいます。しかし、同じ赤色でも物によって、違うイメージを持つ人もいるかもしれませんね。

これらは一例ですが、趣向や行動について、何かを決めつけたり、押しつけたりしていないか、日頃から見つめ直すことが大切だと思います。子どもは成長するにつれて、社会や周囲の大人から様々なことを学びます。**大人達にできることは、誰もが無意識な思い込みを持っていることを理解し、相手を思いやることではないでしょうか。意識が変われば、社会は少しずつ変わっていくかもしれません。**

ご意見・ご感想をお寄せください

男女共同参画情報紙「シェアリング」をお読みいただきありがとうございました。本情報紙は、２月と８月の年２回発行しています。より充実した情報紙を作成していくため、皆様からのご意見・ご感想を下記事務局までお聞かせください。９月末までにお送りいただいた方に粗品をプレゼントします。

発行・事務局　下野市総合政策部市民協働推進課
〒329-0492　下野市笹原 26 番地　☎0285-32-8887　FAX 0285-32-8606
shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp

企画・編集　下野市男女共同参画情報紙編集委員会（小林優作 / 髙橋奏音 / 渡邊樹里 / 髙瀬容子）

下野市男女共同参画情報紙

シェアリング

～わかちあい～

第34号
2025.8

下野市のホームページから「シェアリング」バックナンバーがご覧いただけます。

タイトル【シェアリング】の由来

みんなが“わかちあう”大切さを持って、男女が協力しながら、男女共同参画社会をつくっていけたらとの願いが込められています。

性別にとらわれない生き方

あなたは、日常生活の中で「男性だから」「女性だから」という理由で周りから反対されたり、行動するのをためらったりしたことはありますか。

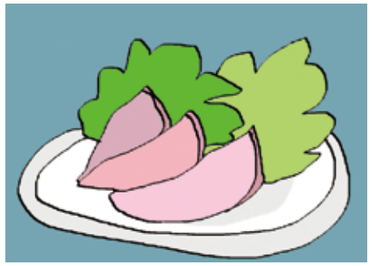
性別による思い込みやイメージにとらわれず、興味のあることや希望する生き方を選択できることは、心豊かな生活につながります。

今号では、「性別にとらわれない生き方」をテーマとし、編集委員が経験した印象的なエピソードをまとめました。このエピソードが自分らしく生きるヒントや新たな気づきになれば嬉しいです。

「自分らしさ」はあなただけのものです。自分の心の声を大切にしていきたいですね。

編集委員❶

手作りハムは父の味



みなさんの家で食事を作ってくれるのは誰ですか。

私が育った家では主に母で、父も時々料理していました。周りにはお父さんが料理をする友達がいなくて、話すとびっくりされたこともあります。母も父もおいしい料理を作ってくれました。得意なメニューが違っていて、いろいろな味に触れる機会に恵まれていました。

父は自宅で仕事をしていたので、学校から帰った子どもたちにおにぎりを握ってくれることもありました。一番手間がかかっていたのは手作りハムです。燻製する時に使う木のチップを父と一緒に買いに行くと、桜のチップはハムにいい香りが移ると教えられました。できあがったハムは薄く切って盛り付けられていました。店で売っているものより地味な色合いで正直おいしそうに見えなかったのですが、食べてみるとほんのり桜の香りがしてそれまで食べたどのハムより味わい深いものでした。

個性的なサンドイッチとの出会いもありました。具材の見た目はレタスとチーズなのですが、正体は予想外のものでした。レタスに見えたのは一枚まるごとのキャベツで、チーズと思い込んでいたものは厚切りのバターだったのです。バリバリしたキャベツと濃厚なバターの組み合わせは印象的でした。

楽しそうに料理する父の影響で、私も台所に立つようになりました。父の料理雑誌を見ながら初めて作ったのがオムレツです。慣れないと卵料理の火加減は難しく、余熱をうまく使うなどコツが分かってくるとどんどん興味がわいてきました。

今も料理は楽しいです。ひとりの時も、家族と過ごす時も。**父はもういませんが、手料理の味と、家庭での料理は女性がするものという当時の「ふつう」にとらわれず伸びやかに生きる姿を見せてくれたことは私にとってかけがえのない大切な思い出です。**

編集委員❷

学問と性別

私の80代の祖母に学校での学びについて聞くと、赤ちゃんだった弟をおんぶして小学校に行ったことや、家の手伝いが忙しく中学校には行けなかったことを話してくれました。NHK の朝ドラでは、戦前、女性の主人公が女学校や大学女子部に通う様子が描写されることもありますが、これは本当に一部の限られた女性の話でした。

それと比べて現在は、女性にも学問の選択肢が多く存在するのではないでしょうか。私はいわゆる「女性」ですが、高校３年生の時、大学受験でうまくいかず、悩んだ挙句、浪人（＝翌年も受験するために、もう１年勉強すること）しました。ひと昔前の認識では「浪人＝男子」のイメージが強かったでしょうが、当時、予備校には女性生徒も多く学んでいました。また、私は現在、大学院の博士課程で研究をしています。博士課程に在籍する学生は研究者を目指している人が多く、私も進学時に「女性がそんなに勉強してどうするんだ」「結婚して子どもを持つのが遅くなる」といった話をよくされました。しかし現在、**女性が大学院の博士課程に進学することは決して珍しくありません。**

私の経験した話は、考え方や状況によっては魅力的に映らないかもしれません。しかし、**現在は性別にかかわらず学ぶことの選択肢が存在することは確かだと考えます。**

編集委員❸

性別にとらわれない生き方とは「私らしく」生きるということ

「男の子」「女の子」という２つの性別に分けられ、それぞれにふさわしいとされるふるまいを期待された経験はありますか？ 服装や髪型、好みまでも、無意識のうちに「性別らしさ」を求められることが少なくありません。

しかし、最近は多様な生き方が認められる社会へと少しずつ変わり始めています。性別にとらわれない生き方とは、「男らしく」「女らしく」といった枠に縛られず、自分が心地よい、自分が好きと思える生き方や選択をすることだと思います。

私は女性ですが、小学生の頃、紺色のランドセルを選びました。すると、親や祖父母、姉から「それは男の子みたいだよ」「そんな色、みんな持ってないよ」と何度も言われました。それでも私はそのランドセルをとても気に入り、６年間大切に使いました。

また、中学生の頃にはスポーツ刈りのような短髪に憧れ、親に反対されながらも髪を短く切りました。最初は否定的だったまわりも、次第に受け入れてくれて、そのことがとても嬉しかったのを覚えています。

私は、自分の気持ちに素直になり、周囲の期待に応えるのではなく、自分らしくあることの大切さを実感しました。**性別を理由に自分の「好き」や「やりたいこと」の選択肢を狭めるのではなく、「私はどうしたいのか」「どんな自分でいたいのか」を大切にすることで、人生はもっと豊かになると思います。**